



出品作家 オラファー・エリヤソンが語る

必要なのは、「we-ness(私たち感)」を語ること。
「we(私たち)」と言ったときの境界を語ること、
「we(私たち)」として行動することです。

ヨコハマトリエンナーレ2017「島と星座とガラパゴス」が、いよいよ8月4日（金）に開幕します。
このほど、出品作家のオラファー・エリヤソンから、ビデオメッセージが届きましたので発表します。
<https://youtu.be/cPJG83bSpjs>

「Green light—アーティストティック・ワークショップ」をヨコハマトリエンナーレ2017で実施します。テーマは包摂です。これは、アートや文化セクターの視点で考案したツールで、強制移住、難民、周縁化された人々、強制移動、社会に受け入れられず、排除された人々の問題に向けたものです。

Green lightプロジェクトはワークショップ形式で、創造性とインスピレーション、自信と願望、信念、互いに支え合うことに関わるものです。

ベースにあるのは、学びの共有、相互に知識や学びを与え合うことです。

教師と生徒という関係ではなく、全員が教え、学ぶ立場にあるのです。

私たちはみなお互いに学び合えるのです。

Green lightプロジェクトは巡回しています。最初はウィーン、次にヒューストン、ヴェネチア、そして今回横浜で展開されます。とても楽しみです。

「we-ness(私たち感)」について考えること、グローバルかつ多面的なレベルで、責任を共有するだけでなく、地域、あるいはもっと小さな関係性、ミクロな「we(私たち)」、たとえば、あなたと私だけでも関わることが出来ます。

ここで必要なのは、「we-ness(私たち感)」を語ることです。「we(私たち)」と言ったときの境界を語ること「we(私たち)」として行動することが必要です。横浜でお会いしましょう。ありがとうございました。



オラファー・エリヤソン

オラファー・エリヤソンは、ヨコハマトリエンナーレ2017で、「Green light —アーティストティック・ワークショップ」を展開します。本ワークショップは、ヨーロッパをはじめ、世界中の難民や移民に対して、希望の光となるグリーン・ライト(青信号)を灯すことを目的に、慈善団体と協働して世界各地で展開しつつあるプロジェクトです。難民など社会的に孤立する参加者たちは、組立式のライトを共に制作し、さらに言語や料理などのレクチャーを受けることで自立を目指します。制作したライトは販売され、その収益は参加者や協力団体へと還元されます。

ヨコハマトリエンナーレ2017期間中、横浜美術館館内で組立式のライトを制作するワークショップを実施する予定です。

「Green light—アーティストティック・ワークショップ」2016
オラファー・エリヤソン
Co-produced by Thyssen-Bornemisza Art Contemporary
Photo: Sandro E.E. Zanzinger / TBA21, 2016
©Olafur Eliasson



<ヨコハマトリエンナーレ2017の開催概要>

会 期：2017年8月4日（金）から11月5日（日）まで ※第2・4木曜日休場
会 場：横浜美術館、横浜赤レンガ倉庫1号館、横浜市開港記念会館 地下
お問い合わせ：ハローダイヤル 03-5777-8600(8:00-22:00)

【プレスリリースお問い合わせ先】ヨコハマトリエンナーレ2017広報事務局（株式会社ブラップジャパン：桑間、横澤）

E-MAIL: pr_yokotori2017@ml.prap.co.jp TEL 03-4580-9110

【横浜トリエンナーレ組織委員会 お問い合わせ先】担当：西山、高橋

E-MAIL: press@yokohamatriennale.jp TEL 045-663-7232 (平日10:00~18:00)